

# 緊急止水弁付サーモスタッフ混合水栓

## 1. 施工の前に

### 安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客様に引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客様まで保管頂くように依頼してください。

### 用語および記号の説明

<b>注意</b>	「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」
	「注意しなさい!」(上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)
	「してはいけません!」(一般的な禁止記号です。)
	「分解してはいけません!」
	「指示通りにしなさい!」(一般的な行動指示記号です。)

### !! 注意

	湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。	
	給湯器の温度設定は60°C以上で使用しないでください。 ※水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らす恐れがあります。	
	衝撃を与えること、もたれかかったりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。	
	【寒冷地用の場合】水抜栓は水抜き以外の目的で開けないでください。 ※湯水が噴き出し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。	
	修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
	給水圧力は必ず給湯圧力以上にしてください。 ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。	
	目盛り通りの湯が出るよう、必ず温度調節を行ってください。 ※使用条件によって目盛り通りの湯が出ず、ヤケドをすることがあります。	
	ストレーナーの掃除をする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。 ※湯水が噴出してヤケドをしたり、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。	
	お客様に引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。 ※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。	

### 本製品の仕様と使用条件

給湯器温度設定	85°C以下	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水(※1)
使用環境温度	【一般地用】0~40°C 【寒冷地用】-20~40°C		但し、内部の水を凍結させないでください。
給水給湯接続	PJ1/2	取付ピッチ	120~210mm
圧力条件	0.05MPa(流動圧)~0.75MPa(静水圧) <b>給水圧力と給湯圧力</b> (※2)		

※1 飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。

※2 給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

### ガス給湯器(比例制御式:16号相当)と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	A+0.08MPa
最高圧力(静水圧)	0.75MPa

※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。

測定条件は次の通りです。

- 開閉ハンドルは全開です。
- 給水温度5°C、吐出温度42°C(ガス給湯器との組み合わせが最も悪い冬季を想定)。
- 給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。
- ガス給湯器の設定温度は最高温です。

### 一般地用

SF-KA346TRHQ

### 寒冷地用

SF-KA346TRQN

### 工事店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書に記入の上、お客様に必ずお渡しください。また、定期的に交換が必要な部品があることをお客様に必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。  
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客様にお渡しください。

### 貯湯式給湯器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力(流動圧)	0.05MPa
最高圧力(静水圧)	0.75MPa

- 給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になります。
- 給湯圧力が温水器の減圧弁によって0.08MPa以下に設定されている場合があります。この場合は別売の加圧ポンプにより給湯圧力を最低必要圧力まで上げていただく必要があります。
- 給湯圧力は水栓直前における流動時の圧力です。

### その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを越える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.34MPa程度)に減圧してください。
- 十分な機能を発揮させるため、給湯器の給湯温度は50°C以上60°C以下にしてください。
- 不意な出湯によるヤケド防止のため、**給湯器の設定温度は60°C以下**にしてください。

### 施工前の注意

#### 取付けに必要な工具

2. 施工方法		3. 施工後の調整	
① 取付脚の取付け	② 水栓の取付け	シールテープ	ドライバー(-)
		スパナ(呼び30)	精密ドライバー(-)
		モンキーレンチ(呼び250以上)	歯ブラシ等
			温度計

### その他の注意点

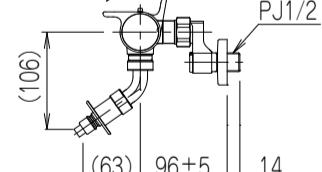
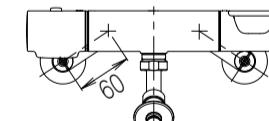
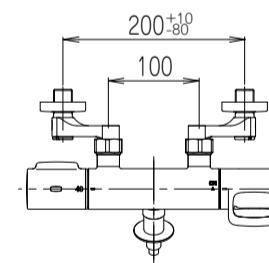
- 給水には水道水を使用してください。  
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。  
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保温材を巻いてください。
- 商品の表面には直接工具を掛けないでください。  
※工具をかける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
- 必ず**配管中の異物を完全に洗い流してください。**
- 通水検査時の検査水が残っている場合がありますが、商品には問題ありません。

### 施工完了図

※品番によっては図と現品の形状が異なります。

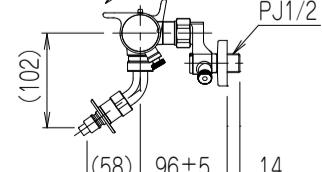
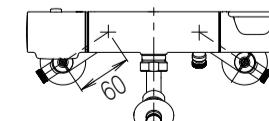
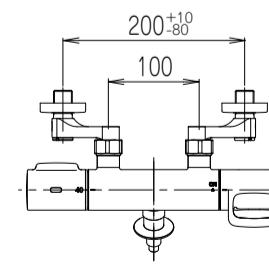
#### 一般地用

SF-KA346TRHQ



#### 寒冷地用

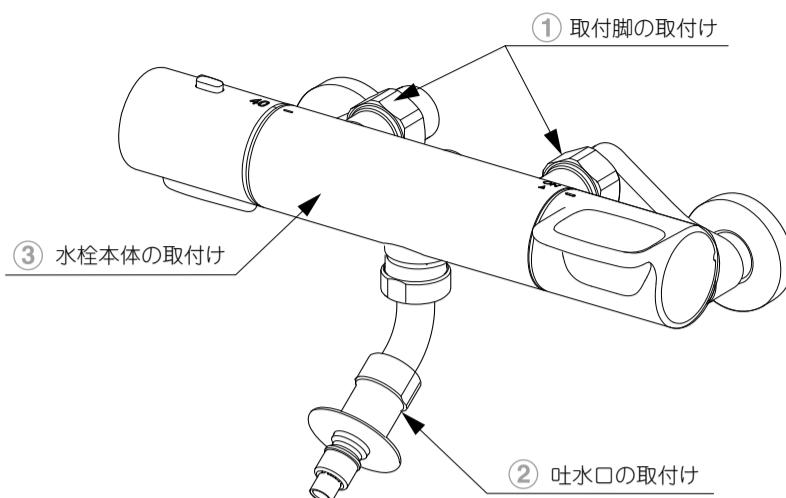
SF-KA346TRQN



## 2. 施工方法

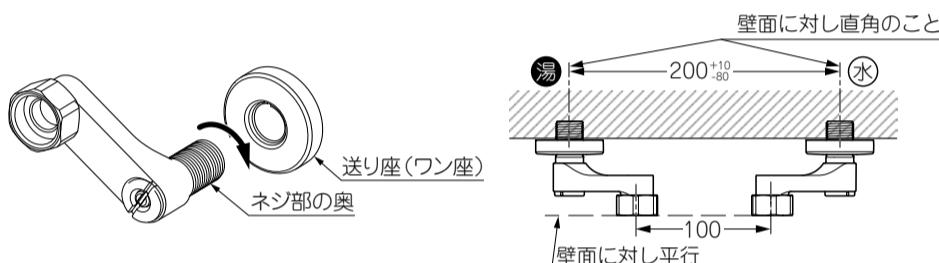
以下の手順通り、正しく取り付けてください。

### 施工手順



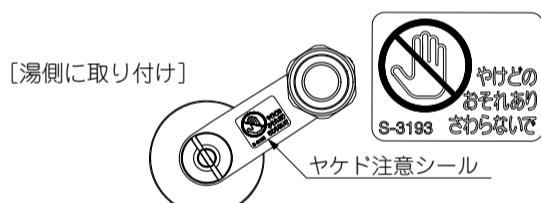
### 1 取付脚の取付け

送り座(ワン座)を取付脚のネジ部の奥までまわし入れる。  
取付脚にシールテープを巻き付け、下図に従って取り付ける。



#### ポイント

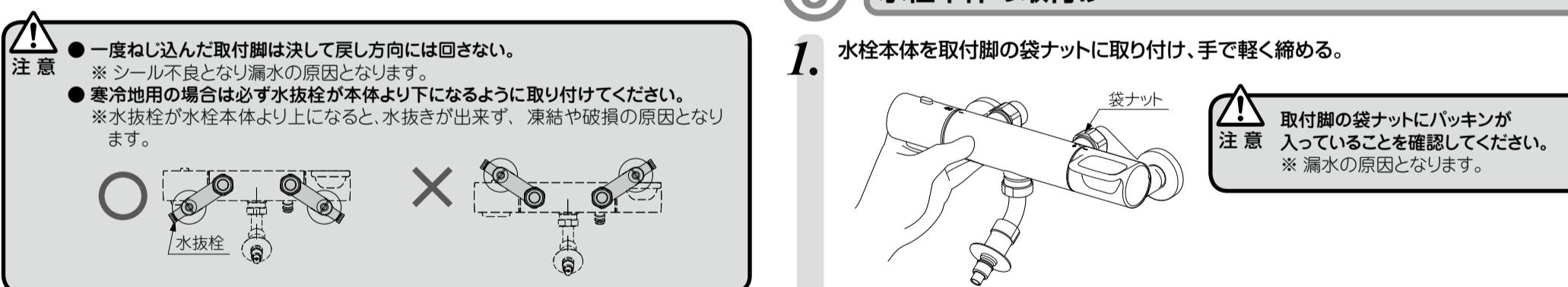
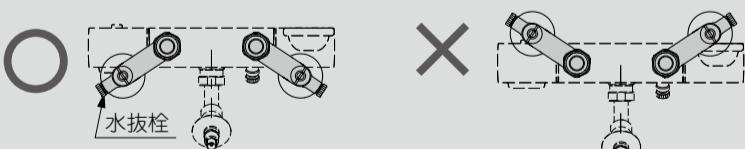
- シールテープは引張り気味にネジの谷間に挟み込む強さで、ネジの締付方向(ネジに向かって時計回り)に巻き、巻き終わったらそのまま引張ってちぎる。
- シールテープの巻数は約5~7回が目安です。
- ヤケド注意シールが貼り付けてある取付脚を湯側に取り付けてください。



\*品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。



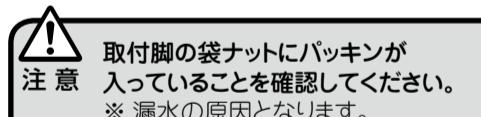
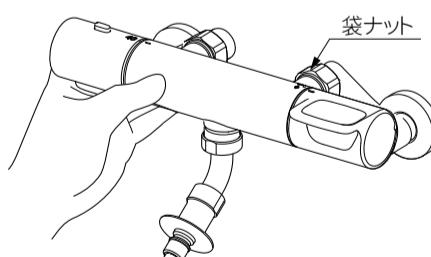
- 一度ねじ込んだ取付脚は決して戻し方向には回さない。  
※シール不良となり漏水の原因となります。
- 寒冷地用の場合は必ず水抜栓が本体より下になるように取り付けてください。  
※水抜栓が水栓本体より上になると、水抜きが出来ず、凍結や破損の原因となります。



### 3 水栓本体の取付け

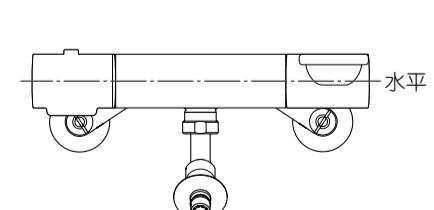
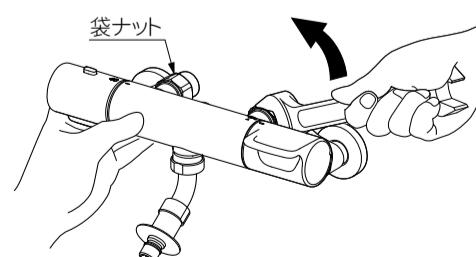
#### 1.

水栓本体を取り付脚の袋ナットに取り付け、手で軽く締める。



#### 2.

水栓本体を水平にし、スパナ(呼び30)で取付脚の袋ナットを締め付ける。



- 水栓本体は重量があります。  
※落下等に十分注意して作業してください。

#### ポイント

- 水栓が水平に取り付くように注意しながら、湯側、水側の袋ナットを交互に締め付け、しっかりと固定する。

### 3. 施工後の調節

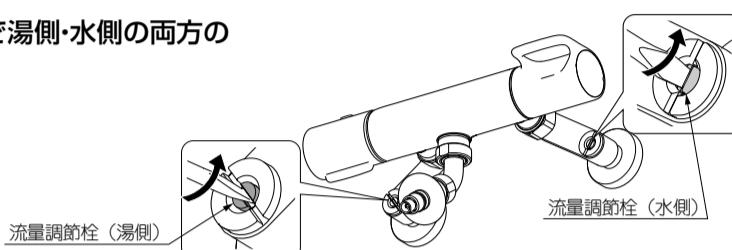
以下の手順通り、正しく調節してください。

吐水口の先端には、緊急止水弁がついています。吐水の確認・調整をするときは、緊急止水弁を手で押し込みながら、吐水してください。

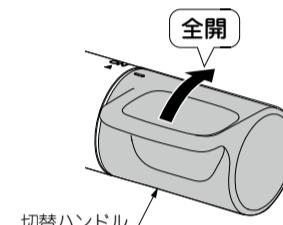


#### 1 通水確認

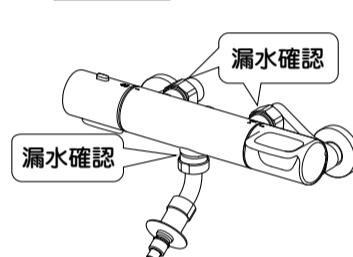
- マイナスドライバーで湯側・水側の両方の流量調節栓を開ける。



- 切替ハンドルを奥側へまわし、吐水口から水が出ることを確認する。



- 水を止め、接続部から漏水がないことを確認する。



#### 2 ストレーナーの掃除

初期通水後のゴミを取り除くために、取付脚のストレーナーを掃除してください。



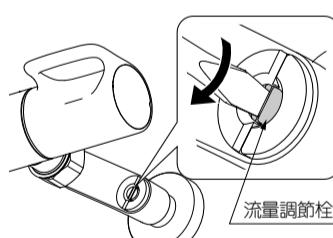
ストレーナーの掃除をする前に必ず流量調節栓を閉めてください。  
※ 閉じずに作業を行うと高温の湯が吐出しやケドをしたり、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

- マイナスドライバーで湯側・水側の流量調節栓を閉じる。

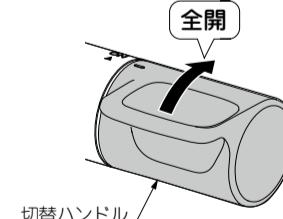
⚠️ 作業前に湯側(左)の取付脚が熱くないか確認してください。  
※ ヤケドの恐れがあります。

ポイント

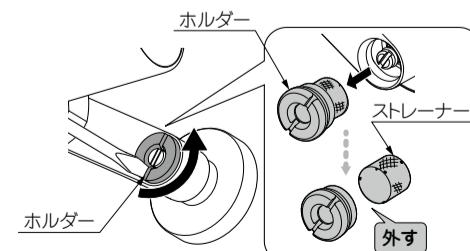
- 湯側・水側の両方行うこと。
- 右側いっぱいまで回すこと。
- 閉じるときに、どの程度回転させたか覚えておくと清掃後の開度調整が容易になります。



- 切替ハンドルを奥側へ全開までまわし、残水を出す。



- マイナスドライバーでホルダーを緩め、ストレーナーを取り外す。



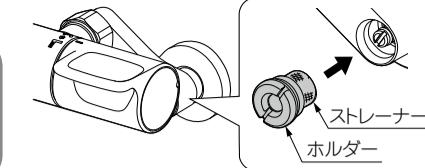
- ストレーナーに付いたゴミや汚れを歯ブラシ等を使用し水洗いする。



- ホルダーとストレーナーを取り付け、流量調節栓を元の位置まで開ける。

ポイント

- 流量調節栓は、必ずホルダーとストレーナーを取り付けた後に開けること。
- 湯側・水側の両方行うこと。



#### 3 給湯温度の設定

サーモスタート混合栓は、湯水を混合して吐水温度を調整しています。このため、給湯器の設定温度より、吐水温度は低くなります。

● 給湯器の設定温度は希望の吐水温度より高めに設定してください。

※ 給湯温度は**50°C以上60°C以下**の設定をおすすめします。

ただし、ヤケド防止のため、60°Cを超えない設定にしてください。

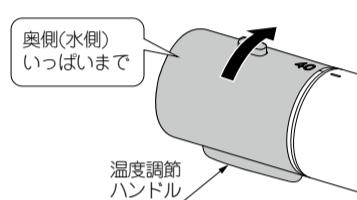
● 流量を絞って使用すると給湯器が作動しない場合があります。

※ 給湯器の取扱説明書にて最低作動流量をご確認の上、ご使用ください。

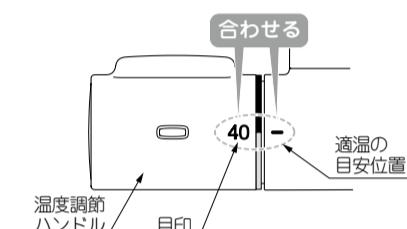
#### 4 流量の調整

水圧が0.20MPaを超える場合は水側と湯側の流量調節栓を次の要領で調節してください。

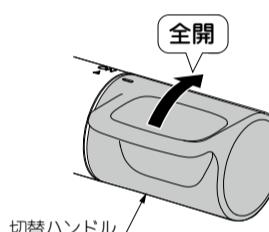
- 温度調節ハンドルを奥側(水側)へいっぱいまでまわす。



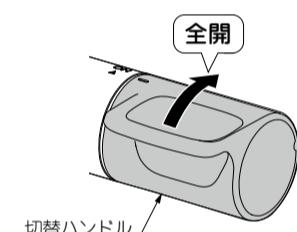
- 温度調節ハンドルの「目印」を「適温の目安位置」に合わせる。



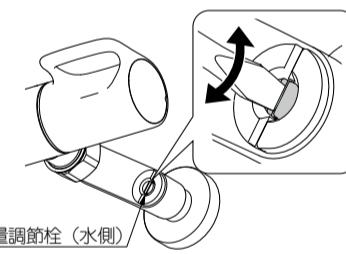
- 切替ハンドルを奥側へ全開までまわし、吐水口から水を出す。



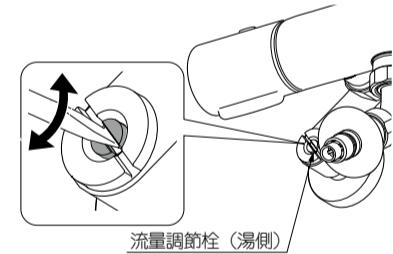
- 切替ハンドルを奥側へ全開までまわし、吐水口から湯を出す。



- マイナスドライバーで水側(右)の流量調節栓を調整する。



- マイナスドライバーで湯側(左)の流量調節栓を調整する。



ポイント

最適な流量とは…

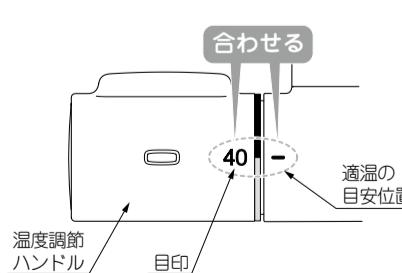
洗面器(容量3L)をいっぱいにするのに、約10秒弱が目安です。(=20L/分程度)

#### 5 吐水温度の確認

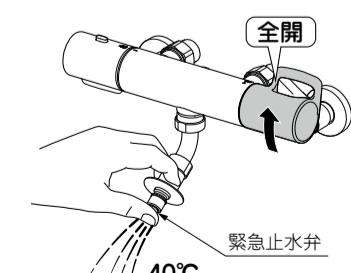
温度調節ハンドルは出荷時に設定していますが、使用条件(給水・給湯圧力、給湯温度)が異なると、表示どおりの温度が出ないことがあります。

吐水温度が表示どおりになっているか次の手順で確認してください。

- 温度調節ハンドルの「目印」を「適温の目安位置」に合わせる。



- 切替ハンドルを奥側へ全開までまわし、吐水温度を確認する。



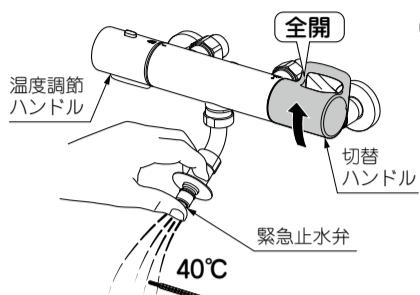
吐水温度が	適温(約40°C)である	そのままご使用いただけます。
	適温(約40°C)に合っていない	下記の「温度調節ハンドルの設定」を参照し再調整をしてください。 LIXIL 修理受付センターにおいてもハンドル調整を承りますが、保証期間内でも有料作業となります。

## 温度調節ハンドルの設定

吐水温度と温度調節ハンドルの表示が合っていない場合は、次の手順で再調整してください。  
LIXIL修理受付センターにおいてもハンドル調整を承りますが、保証期間内でも**有料作業**となります。

※ハンドルの設定手順は、動画でもご確認頂けます。  


- 1.** 開閉ハンドルを奥側へ全開までまわし、ハンドシャワーから水を出す。  
温度調節ハンドルを「目印」の表示に関係なく吐水温度が適温（約40°C）になるようにまわし、止水する。



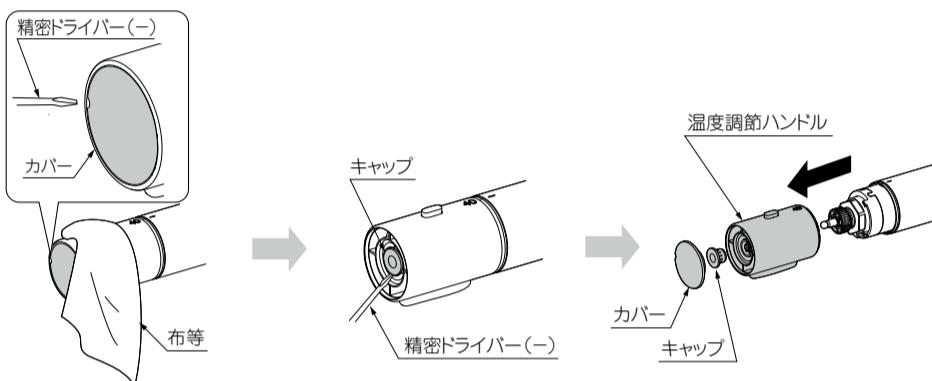
## ポイント

## 【高温の湯を出す場合】

温度調節ハンドルには、安全ボタンがついており、目盛「40」を少し過ぎたところで一度ロックされます。さらに高温側に回したいときは、安全ボタンを押しながら回します。

- 2.** 温度調節ハンドルがまわらないように注意して、キャップ、ネジ、温度調節ハンドルの順に取り出す。

- ①温度調節ハンドルに布等を被せて保護し、②精密ドライバー（-）でキャップを③温度調節ハンドルを手で引き抜き取り外す。

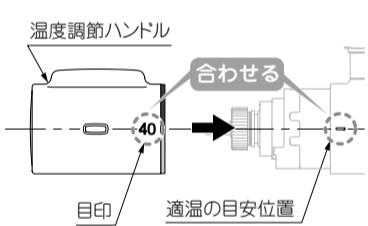


**注意** カバー・キャップを取り外す時は、慎重に行ってください。  
※無理に取り外そうとすると、キズ、破損の原因になります。

## ポイント

キャップを外すと温度調節ハンドルは手で引っ張るだけで外れます。

- 3.** 取り外した温度調節ハンドルの「目印」が「適温の目安位置」に合うように温度調節ハンドルをはめて、キャップ、カバーを取り付ける。



**注意** 取付け後は、温度調節ハンドルの目印と適温の目安位置「-」を合わせた位置で吐水し、適温になっているかを確認してください。  
※高温の湯が出て、ヤケドの恐れがあります。

## ポイント

キャップを奥までしっかりと挿入します。

## 4. 引渡前の確認

お客様に引き渡す前にもう一度通水し、以下の現象がないか確認してください。  
※点検箇所は、下図を参照してください。

現象	点検内容	点検箇所	処置	参照項目
温度が安定しない、温度調節がうまくできない	圧力は十分か？	—	圧力条件を確認する。	施工の前に 「本製品の仕様と使用条件」
	しばらく流しても改善しないか？	—	温度が安定するまでお湯を出し続けてから使用する。	
	他の場所(トイレ、キッチン、洗面など)で同時に水栓を使用していないか？	—	他の場所の水栓と同時に使用しないようにする。	
	給湯器の温度は正しく設定されているか？	—	給湯温度を50°C以上60°C以下の設定にする。	施工後の調整 「吐水温度の確認」
	温度調節ハンドルの設定と吐水温度は合っているか？	A	温度調節ハンドルの再調整をする。	施工後の調整 「吐水温度の確認」・ 「温度調節ハンドルの設定」
	流量調節はされているか？	B	適正流量に調節する。	施工後の調整「流量の調整」
流量が少ない	ストレーナーにゴミが詰まっているか？	C	ストレーナー汚れや目詰まりを取り除く。	施工後の調整 「ストレーナーの掃除」
	給湯器の温度は正しく設定されているか？	—	給湯温度を50°C以上60°C以下の設定にする。	施工後の調整 「吐水温度の確認」
	圧力は十分か？	—	圧力条件を確認する。	施工の前に 「本製品の仕様と使用条件」
	流量調節栓は十分に開いているか？	B	流量調節栓を十分開く。	施工後の調整「流量の調整」
	ストレーナーにゴミが詰まっているか？	C	ストレーナー汚れや目詰まりを取り除く。	施工後の調整 「ストレーナーの掃除」
	配管途中に大きな抵抗はないか？	—	抵抗となる障害物を取り除く。	
流量が多くすぎる	切替ハンドルを絞りすぎているか？	D	切替ハンドルを開く。	
	流量調節はされているか？	B	流量調節栓を絞る。	施工後の調整「流量の調整」
	ゴミかみはないか？	E	ゴミ等を水で洗い流す。	
	Oリング、シートにキズはないか？	E	キズがあれば部品を交換する。	
	吐水口接続部から水が漏れているか？	F	吐水口の固定ナットをしっかりと締める。	施工方法「吐水口の取付け」
	取付脚と本体の袋ナットから水が漏れているか？	G	取付脚の袋ナットをしっかりと締める。	施工方法「水栓本体の取付け」
接続部から水漏れする	湯水の逆流がある	H	ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。	
	水栓本体から音がする	B	流量調節栓を適切に絞っているか？	施工後の調整「流量の調整」
	水栓本体がガタつく	G	取付脚の袋ナットをしっかりと締める。	施工方法「水栓本体の取付け」
	ゆるみはないか？			

## 寒冷地(水抜式)

